

# 「未来へのステップ2016～1/2成人式～」

（35 時間扱い：前半 20 時間・後半 15 時間）  
授業者 阿部 智

## 1. 《単元について》

**目標：** 自分の未来を想像し、そこへ向かってチャレンジしていくために、周囲の大人などに話を聞き、そこから得られた情報を効果的に整理・分析することで、今の生活を見直すことができるようにする。

本単元では、10歳の節目になる4年生の子供達に、将来への希望とそこまでの道のりを明確に想定し、20歳になったときの自分に向けてチャレンジしていこうとする意欲を高めていくことを目指す。

4年生の子供達が、日々の学びを何ために行っているのか自覚できているかという、そこまでは達していない。将来大人になったときの自分を、実感を伴って想定できているかという、それも確かではない。

そこで、先輩児童や周囲の大人などにインタビューをすることを通して、大人になることを4年生なりに実感できるようにしていきたい。そのために、大人になることについてやそのために何をしていくことが必要なのか、子供達自身で見出していくことが大切である。収集した情報を効果的に整理分析をすることで見出していく。そのために、思考ツールを活用していきたい。

本単元を通して気付いたことや身に付けたことをまとめ表現する場として、1/2成人式を設定する。自分の未来を自らの力で想定し、そのための展望を子供たち同士で伝え合い、認め合うことで、共に力を合わせてこれから学んでいこうとする姿を期待する。

## 2. 《総合的な学習の時間における発達段階をふまえた身に付けるべき資質・能力》

	何を知っているか、何ができるか （個別の知識・技能）	知っていること・できることをどう 使うか（思考力・判断力・表現力）	どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）
第三・四学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題追究するために<b>有効な方法身に付ける</b></li> <li>○学習の目的を意識しながら<b>学習計画を立てる。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○設定した課題を追究するために、先輩児童や周囲の大人から得た情報について、<b>効果的な整理・分析を行う。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己の将来を見通し、夢や希望をもつ</li> <li>○課題を追究することを通して、互いのよさを認め合うとともに、見方や考え方を高めながら自分のよさや可能性に気づき、<b>自己の生活につなげようとする。</b></li> </ul>
第五・六学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体験や探究活動によって得られた知識をもとに、さらに課題の追究に取り組む</li> <li>○自ら学習計画を立て、協力して計画を進めていく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○設定した課題を追究するために、収集した情報を整理する手立てを選択し、分析する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己の将来を見通し、将来のことを考える大切さに気付く</li> <li>○課題を追究することを通して、自分と異なる意見も理解しようとし、見方や考え方を深めながら自分のよさや可能性を、自己の生活に生かそうとする。</li> </ul>

## 3. 《育成すべき資質・能力を踏まえた単元における評価規準》

	評価1 何を知っているか、何ができるか （個別の知識・技能）	評価2 知っていること・できることをどう 使うか（思考力・判断力・表現力）	評価3 どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら課題を見出し、その解決のための手順を仲間との話し合いを通して計画し、課題を追究するための情報を進んで集め、その情報を課題の解決に向けて整理・分析していく<b>流れを</b>単元の学習活動を通して<b>身に付ける。</b></li> <li>○20歳になったときの自分を想像し、未来の姿を明確にするために、解決しなければならないことを見出し、その解決の手立てについて、<b>仲間と話し合いながら計画を立てる。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題を解決するために、高学年の児童や周囲の大人、専門家などから情報を直接手に入れることで、かかわっている人々の思いを知る。また、集めた情報を<b>整理・分析</b>することで、未来に向けて何を必要とするのか自覚できるように、思考ツールを活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職業についてや周囲の大人の生き方などを追究していく中で、自分の将来についての思いを明確にしてい</li> <li>く。そして、一人一人将来への思いが違うことに気づき、それらを尊重しながら、<b>これからの自分の生活について、見直そうとしている。</b></li> </ul>

#### 4. 《研究とのかかわり》

「三つの視点」を生かしたアクティブ・ラーニングの具体を以下に示す。子供が学びの連続性、必要性、関連性を自覚しながら学ぶことができるよう「学びの文脈のある単元を構想する」。その中に「必要感のある協同的な学びの設定」と「目的に応じた弾力的な振り返り」を位置付ける。

##### (1) 学びの文脈がある単元を構想する ～単元のグランドデザイン～

###### 第1冊

研究のサイクル	開始期					展開期					まとめ期									
	課題設定			情報収集		整理分析					まとめ表現									
時数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
開始期	今までの活動を振り返り、学習の見通しを立てる。																			
展開期	10歳のイメージを広げる。 <b>イメージマップ</b>			自分新聞を作成するために、情報を収集する。 将来のことを見通すために、身近な人や先輩などにインタビューをしたり、アンケートをとったりする。					得られた情報をもとに、将来の自分を考える。 多面的な見方によって情報を協同的に分析する。 <b>ベン図</b> <b>ステップ・チャート</b> <b>コンセプトマップ</b>					将来の自分を想定した、これからの生き方を主張する方法を考える。 目的に応じた主張方法を選択、判断する。 <b>マトリクス</b>						
	お互いのイメージを交流し、共通点や相違点を見出す。			目的に応じて収集した情報を、分類して整理する。 <b>データチャート</b>					将来の自分を想定した主張文交流会を行う。					主張文交流会を受け、気付いたことを整理する。 主張文交流会を行い、感じたことを書き出し、共通点や相違点を見出す。 <b>KJ法</b>						
まとめ期	1/2成人式を知り、開催に向けてどうすべきか話し合っ、方向性を見出す。 <b>スケールチャート</b>			自分新聞を作成し、自分と周囲の人々とのかわりや、自分のよさに改めて認識するとともに、将来に向けての生き方について考えようとする。					各年代において、どのようなことを大切に生活しているのか共通点を見出し、将来の自分の姿を明確にする参考にする。 <b>カード</b>					主張する方法を選択し、自分の考えを効果的に伝えることができるようにする。						
活動を振り返り、次の学習の見通しを立てる。																				

###### 第2冊

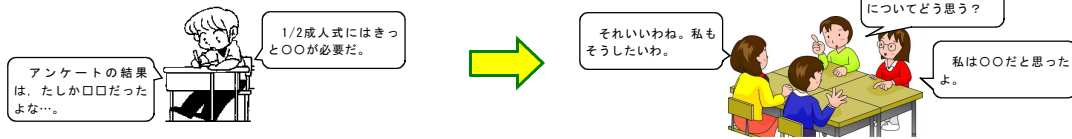
研究のサイクル	開始期			展開期			まとめ期								
	課題設定		情報収集	整理分析		まとめ表現									
時数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
今までの活動を振り返り、学習の見通しを立てる。															
開始期	1/2成人式において、自分達の主張を効果的に発信するためにどんな方法があるのか考える。 <b>イメージマップ</b>			1/2成人式の開催に向けて具体的な計画を立てる。 お互いの考えを交流し、必要なことを見出す。 <b>イメージマップ</b>			1/2成人式の内容を整理し、各プログラムで考えるべきことを話し合う。 式の各プログラムが目的に応じた取り組みになるよう、必要な情報を集め、式の内容を構造的に整理する。 <b>プロット図</b> <b>座標軸</b> <b>ピラミッドチャート</b> <b>マトリクス</b>			今までの計画してきたことを振り返り、1/2成人式のプレ発表を行う準備をする。 1/2成人式のプレ発表会を行う。 <b>カード</b>			1/2成人式のプレ発表を通して、本番に向けて課題を見いだす。 お互いの考えを交流し、必要なことを見出す。 <b>KJ法</b>		
	お互いのイメージを交流し、共通点や相違点を見出す。			発信する方法をどうするか話し合っ、方向性を見出す。 <b>スケールチャート</b>			1/2成人式の開催までの取組を話し合っ、方向性を見出す。 本番に向けて、自分達がどのあたりまで準備が進んでいるのか把握し、次の準備計画を立てる。			発表会を通して気付いたことを書き出す。 見出した課題の解決を図るため、仲間と協力して準備を進める。			1/2成人式を行い、感じたことを書き出し、共通点や相違点を見出す。 <b>KJ法</b>		
活動を振り返り、次の学習の見通しを立てる。															

##### (2) 必要感のある協同的な学びを設定する

必要感のある協同的な学び

目的に応じた弾力的な振り返り

- 単元を通して解決すべき課題を設定する。  
本単元では、「主張文交流会」と「1/2成人式」を開催することを単元を通して解決すべき課題とすることで、学級全体の力を合わせて、課題解決に臨まなければならない必要感を創出する。
- 一人で考える場面と、複数で考える必要がある場面を明確に分けて設定する。



一人でじっくり考える＝アイデアの粒を作る

複数で話し合っ考える＝アイデアの粒を持ち寄って実現可能なものへ膨らませる

- 3～4人1班で話し合う。  
複数人での話し合いの場合、必要な中心的役割として、司会役、記録役、主にアイデアを出す役が挙げられる。自分の役割をしっかりと把握し、切実感や必要感をもって話し合いに臨むために、班構成を少人数とする。
- 思考ツールを活用する。  
各活動の目的に応じたツールを活用することで、視覚的に分かりやすく、操作性も高まるので、協同的な話し合いが活発になることが予想される。その際、どんな思考をし、結果どのようなことを見出していくのかを、全体で共通確認する必要がある。

##### (3) 目的に応じて振り返りを弾力的に設定する

- 振り返りの目的を「前時までの振り返り」と「本時の振り返り」とし、役割を明確にする。

###### 「前時までの振り返り」

- 授業の開始期に行う。
- 前時までの学びを整理し、本時の学習とのつながりを見出す。
- 本時の課題設定に生かす。

###### 「本時の振り返り」

- 授業のまとめ期に行う。
- 本時の学びを整理し、次時の学習への見通しを見出す。
- 次時の課題設定に生かす。

5.《単元計画》 第一幕 (20 時間)

	学習活動 (○) と子供の姿	教師の支援 (☆) と評価 (◇)	
開始期	<p>○ 節目の年である「10 歳」についてのイメージを語る。</p> <p>高学年の仲間入りをしたよね。</p> <p>でも、失敗もたくさんするよ。</p> <p>自分で何でもできるようになる。</p> <p>意外とイメージが湧きづらいかも</p> <p>○ 『十歳のきみへ』(一部)を読み、感想を交流する。</p> <p>今を一生懸命生きなきゃいけないことが分かった。</p> <p>けれど、今の何をどう変えていけばいいのかははっきりイメージできないな。</p> <p>○ 10 歳の節目を祝う式 (1/2 成人式) の存在を知り、どのような式なのかイメージを拡げる。</p> <p>どうしてこんな式があるんだろう。何のために行うのかな。</p> <p>誕生日祝いとは違うね。もっと大切なことのような。</p> <p>将来の夢などを友達や家族へ伝える場なんだな。</p> <p>昨年の 4 年生もやったらしいよ。私たちもやろうよ。</p> <p>○ 1/2 成人式を開催するために、何をやる必要があるか考える。</p> <p>夢なんてはつきり決まっていらないよ。</p> <p>自分のことを見直すことから始めないとね。</p> <p>将来どうなりたいか目標をもつと、見直すことができるよね。</p> <p>家族や友達に聞くといいよね。</p> <p>聞いたことをどのようにまとめていけばいいのかな。</p>	<p>◇ 10 歳が節目の年であることを知り、自分の将来について考え、今の生活について見直そうとしている。【評価 3】</p> <p>☆ 10 歳という年齢の存在について、人生の先輩の考えを知り、今の自分の生き方や考え方を見直すきっかけとするために『十歳のきみへ』日原重明著を用意する。</p> <p>☆ イメージを明確にしながら思考を拡げていくために、思考ツール「イメージマップ」を活用する。</p> <p>☆ 1/2 成人式について、子供たち独自の価値を見出せるよう、上記のイメージマップを活用する。</p> <p>◇ 次の学習の見通しを立てるために、友達同士話し合いながら学習計画を立てることができる。【評価 1】</p> <p>☆ <u>学習の目的とその達成のための手立てを順序よく計画できるようにするため、思考ツール「スケールチャート」を活用する。【必要感のある協同的な学びを設定する】</u></p>	
	展開期	<p>○ 自分新聞の内容や作成計画について検討する。</p> <p>調べたことをまとめるために、新聞づくりをしてきたよね。</p> <p>インタビューして、大切なことをまとめて、記事づくりをして…。</p> <p>○ 自分の成長について、情報を収集する。</p> <p>家族や友達にどんなことを聞けばいいのかな。</p> <p>3 年生のときに使ったデータチャートを使うと、記事づくりに時に便利だね。</p> <p>○ 収集した情報から、自分新聞を作る。</p> <p>集めた情報から、伝えたいことを記事にまとめよう。</p> <p>今までのことや今のことをまとめることができたけど、これからのことはどうしよう。</p> <p>○ 自分新聞からこれからの自分について、イメージを拡げる。</p> <p>今のままでいいこと。もっと伸ばしたいこと。変えていけないこと。新しくチャレンジしたいことを考えていこうよ。</p> <p>でも、何をしたいのか、どうしたいのかははっきり思い浮かばないな。</p> <p>○ 将来の夢について、具体的なイメージを持つための方法について話し合う。</p> <p>先輩方に聞くことはできるかな。</p> <p>20 歳になった人に聞いてみたいな。</p> <p>○ 将来の夢についてのコンセプトを交流し、自分の考えを見直す。</p> <p>自分の夢についてまとめたけど、まだはつきりしないことがある。</p> <p>他の人がどんな考えなのか聞いてみたいな。</p> <p>少しずつ将来どういうふうになりたいか、イメージができるようになってきた。</p> <p>これで 1/2 成人式で発表できそうだ。</p>	<p>◇ 今までの自分を振り返るために、周囲の人から情報を直接手に入れ、集めた情報を効果的に整理・分析する。【評価 2】</p> <p>☆ 複数の人に筋道を立てて知りたい情報を整理しながら収集するために、思考ツール「データチャート」を活用する。</p> <p>☆ <u>たくさんの情報を要約して整理するために、思考ツール「コンセプトマップ」を活用する。【必要感のある協同的な学び】</u></p> <p>◇ 次の学習の見通しを立てるために、友達同士話し合いながら学習計画を立てることができる。【評価 1】</p> <p>☆ <u>学習の目的とその達成のための手立てを順序よく計画できるようにするため、思考ツール「スケールチャート」を活用する。【必要感のある協同的な学びを設定する】</u></p> <p>◇ これからの自分を考えるために、周囲の人から情報を直接手に入れ、集めた情報を効果的に整理・分析することで、将来についてのイメージを明確にすること</p>
本時			

		<p>ができるようにする。<b>評価2</b></p> <p>☆ 複数の人に筋道を立てて知りたい情報を整理しながら収集するために、思考ツール「データチャート」を活用する。</p>
まとめ期	<p>○ 見出したことをもとに、これからの自分を主張する文を考える。</p> <p>1/2成人式での発表に向けて、将来の夢についての主張文をまとめていこう。</p> <p>みんなどんなことを書いたのか聞きたいな。</p> <p>○ 主張交流会で発表する。</p> <p>○ 交流したことを通しての感想を交流する。</p> <p>他の友達の考えを知ることができて、自分もがんばっていこうと思った。</p> <p>1/2成人式で自分達の思いがより伝わるよう、準備の計画を立てていこう。</p>	<p>◇ 自分新聞や主張文づくりを通して、自分の生活に対しての考え方や過ごし方について見直そうとしている。<b>評価3</b></p> <p>☆ 他の友達の主張を聞いたり、感想を交流したりする際、将来に向けての努力に視点を置いて聞くよう、声かけをする。</p>

## 第二幕 (15時間)

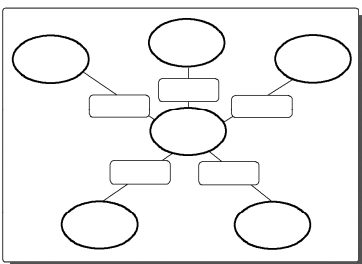
	学習活動 (○) と子供の姿	教師の支援 (☆) と評価 (◇)
開始期	<p>○ 1/2成人式において、自分たちの主張を効果的に発信するためには、どのような方法が考えられるか検討する。</p> <p>ただ聞いてもらうのではつまらないね。</p> <p>節目の年だから、記念となるイベントをしたいね。</p> <p>自分達のがんばりを家族にも知ってほしいな。</p>	<p>◇ 自分の考えを発信しようとする中で、相手意識をもって、自分の将来についての考えを整理していこうとしている。<b>評価3</b></p>
展開期	<p>○ 1/2成人式について、開催に向けて具体的な準備計画を立てる。</p> <p>お客さんが来るから…</p> <p>主張の伝え方をもっと見やすく工夫しないと。</p> <p>たくさんの人が参加するから、どうすれば自分達の考えがしっかり伝わるのか考えていこう。</p> <p>○ プログラムを考え、各活動で必要なことを考え、準備を進める。</p> <p>来てもらう人のことを考えていかないね。</p> <p>幼稚園との交流のときのように練習もやろう。</p> <p>○ 1/2成人式プレ発表会を行う。</p> <p>○ プレ発表会を振り返り、本番に向けての課題を見出す。</p> <p>一度やっておくと、本番のイメージができて、自信がもてるね。</p> <p>まだ、見直さないといけないところがあるぞ。</p> <p>家族に伝えたいことをもっとはっきりさせていこう。</p> <p>役割や、伝えたいことなどをもう一度確認しておこう。</p>	<p>◇ 次の学習の見通しを立てるために、友達同士話し合いながら学習計画を立てることができる。<b>評価1</b></p> <p>☆ <b>学習の目的とその達成のための手立てを順序よく計画できるようにするため、思考ツール「スケールチャート」を活用する。【必要感のある協同的な学びを設定する】</b></p> <p>☆ 伝える相手のことを考えた準備ができるよう、既習事項（幼稚園との交流）を想起する場面を設ける。</p>
まとめ期	<p>○ 1/2成人式を行う。</p> <p>○ 1/2成人式を振り返り、感想を交流する。</p> <p>将来なりたいことや、今がんばっていくことを伝えると、喜んでくれたよ。</p> <p>お母さんやお父さんから、手紙をもらってうれしかったよ。</p> <p>みんなが応援してくれるから、将来に向けてチャレンジしていこうと思ったよ。</p>	<p>◇ 1/2成人式を通して、自分の考えを発信することで、将来の夢やこれからの生活に対しての考え方を明確にすることができている。<b>評価3</b></p> <p>☆ 友達同士の感想を交流する際、できるだけ多く話す機会を作ることができるよう、少人数でKJ法を行い、その結果を全体で交流する。</p>

6. 《本時案》(本時 13/35)

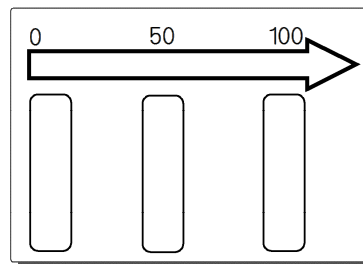
本時の目標

将来の夢について整理した資料を交流することで、自分の考えがより伝わるように見直すことができる。

学習活動 (○) と子供の姿	教師の支援 (☆) と評価 (◇)
<p>○ 前時までの学習を振り返る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>自分新聞を見直して、将来の夢についてコンセプトマップにまとめてみた。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>コンセプトマップにまとめると、どうしてその夢を持ったのかが分かりやすくなった。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>先輩方からもらったアンケートのおかげで、自分の夢に自信が持てた。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>でも、本当にこれで相手に伝わるかな。他の人はどんな風にとまとめたかな。</p> </div> </div>	<p>☆ 本時の学習課題を見出すために、前時までに得られた情報を見直し、交流する。 【目的に応じた弾力的な振り返り】</p>
<p>○ 課題を設定し、学習の見通しを持つ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>将来の夢についてのコンセプトを他の人にも聞いてもらいたいな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>お互いのコンセプトを交流して意見をもらい、自分の主張文作りに生かしていこう。</p> </div> </div>	
<p>○ 自分の将来の夢についてのコンセプトを交流する。【小集団】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>ぼくのコンセプトを聞いて、他の人はどう考えるかな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>他の人に質問されると、答えることができないところがあった。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>わたしが考えていなかったところについて、考えているなんてすごいな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>共通して出しているキーワードは、将来の夢を伝えていくために大切だと思うよ。</p> </div> </div>	<p>◇ 将来の夢に対する思いを聞くことで、一人一人の思いの違いに気づき、それらを尊重しながら、自分の考えを見直すことができる。【評価3】</p> <p>☆ 交流の際、伝えたいことを分かりやすくするために、思考ツール「コンセプトマップ」を活用する。【必要感のある協同的な学び】</p>
<p>○ 交流して気付いたことを伝え合う。【全体】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>夢に向けて、今何をすべきなのかについて考えていなかったことに気付いた。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>私が悩んでいた、何をがんばればいいのか、について見通しをもつことができた。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>なりたい将来の夢は、人によって様々だけれど、それに向けてがんばっていることには、共通することが見えてくるね。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>将来の夢について述べていく主張文作りの参考になった。</p> </div> </div>	
<p>○ 今後の学習計画を立てる。【全体】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>今日の学習で、自分が考えた主張は、見直す必要が出てきたぞ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>一度見直した後、文章にまとめていけるね。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>書いたら、みんなで交流しようよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>じゃあ交流会の計画を立てないといけないね。</p> </div> </div>	<p>◇ 本時の学習で得られたことをもとに、次の学習にどのようにつなげていくのか、友達と話し合いながら見通しをもつことができる。【評価1】</p> <p>☆ 主張文を作成する計画を見通すため、本時の学習で得られたことを振り返りつつ、思考ツール「スケールチャート」を活用する。【目的に応じた弾力的な振り返り】</p>



コンセプトマップ



スケールチャート